

芦廻瀬川

【日時】 平成28年7月29～30日 29日曇り 30日晴れ時々曇り

【メンバー】 Y川 (L)、T

【概要】

大峰の銘溪、芦廻瀬川を遡行した。自転車を白谷林道入り口にデポしておき、車でダム手前まで入り遡行開始。すぐに七泰ノ滝である。水量多く、見応えがある。右岸を簡単に巻く。上流に連なる滝群は、すべて左岸を巻いて通過した。やらしい所もあるが、鎖や虎ロープもあり確保無しで通過できた。フジネの先で、S字状のナメ滝が有る。ここで初めてロープを使う。立った右岸をへつるか、左岸に徒渉するのだが、左岸に徒渉することとする。流れが速いので、ロープ確保で渡った。ヒイラギ大淵は泳ぎ、大釜の滝は釜を泳いで右を直登した。やがて焼嵩淵に到着する。流れが緩いので各自泳いで行くが、長いので息切れする。ここからは、美しいエメラルドグリーンの大淵の泳ぎが連続する。大淵を泳いで左に曲がると、大釜のある滝が現れる。ここは、Y川がロープを付けて空身で泳いで右岸に上がり、Tさんと荷物を引っ張る。上は簡単な登りで、荷を背負いロープ確保で登って抜けた。

しばらく行くと、核心の8m滝が現れる。Y川がロープを付けて空身で右岸の砂浜から左岸側に泳ぎ、壁に上がる。水から上がるのは難しくはないが、岩がヌルヌルでとにかく滑る。最初の1mほどが立っているのので、次の一手が出ない。そこでハーケンを打ち、これを起点にA0で上に立ち込む。すると次の残置ハーケンに手が届き、以後次々と3箇所ほど残置ハーケンを拾い、ヌルヌルしたクラック添いに登って2本の残置でビレー、荷揚げしてからTさんが登った。ここから滝頭にトラバースし、落ち口に抜けた。

ナメの続く十皿の後は、しばらく変化は無い。ただひたすら上流を目指して進む。S字淵は時間の都合で巻くことにし、容易に右岸を巻く。ずっと幕営に適した河原が無く、仕方なくさらに進むと狼返しの滝に到着。泳ぎを交えて抜け、堰堤を二つ超えたら河原が広がった。もう18時半なので、ここでタープを張った。

翌朝はゆっくりし、たき火なども楽しむ。地図で現在地を確認すると、すぐ上は白谷林道であることが判明する。そこで、遡行は打ち切り15分ほど右手の斜面を登って林道に出た。これを15分ほど辿ると自転車デポ地であった。車回収はTさんをお願いしたが、坂道ではつらい思いもされたようである。Tさんには感謝です。

心残りは、焼嵩淵手前でカメラに浸水事故が発生し、以後の撮影ができなかったことくらいであろうか。二人して、心から沢登りを楽しんだ。

29日 入溪 9時30分 焼嵩淵 11時05分 8m滝終了 13時10分 狼返しの滝 17時40分 泊地 18時30分

30日 出発 7時 林道 7時15分 自転車デポ地 7時30分

